

平成29年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞 受賞者一覧

【創立者古屋賞】

| NO | 部門     | 氏名                   | 学科       | 学年 | 所属         | 内容   |
|----|--------|----------------------|----------|----|------------|--|
| 1  | 創立者古屋賞 | 木下 貴輪                | 法        | 4  | レスリング部     | ・文部科学大臣杯全日本学生選手権大会 2度優勝(平成27年・29年)<br>・内閣総理大臣杯全日本大学選手権大会 個人3連覇(平成27年～29年)<br>・東日本学生リーグ戦 主将として5連覇に貢献し、平成29年には最優秀選手賞を受賞  |
| 2  | 創立者古屋賞 | 河村 元美                | 現代ビジネス   | 4  | ホッケー部 [女子] | ・平成28年 第31回オリンピック競技大会(ブラジル・リオデジャネイロ) 第10位<br>・平成28年 第38回全日本学生ホッケー選手権大会 優勝  |
| 3  | 創立者古屋賞 | カロリーナ・クリスティナ・ステフェンスカ | 社会科学 研究科 | 2  | 今井ゼミ       | ・2015年度 日本将棋連盟研修会 C2昇格 プロ資格女流3級 取得<br>・日本の家元制度の流れを受けた過去400年で、初めての外国人プロ棋士となる。<br>・NHKワールドニュース、フジテレビ、テレビ朝日、山梨放送、テレビ山梨等各種メディアで紹介され、大学の知名度向上に貢献した。<br>・2016年3月より、「甲府大使」に任命され、現在も各方面で活躍中している。 |

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・大学院】

| NO | 部門        | 氏名    | 学科       | 学年 | 所属    | 内容   |
|----|-----------|-------|----------|----|-------|--|
| 1  | 学術 (修士論文) | 酒向 裕一 | 社会科学 研究科 | 2  | 太郎良ゼミ | 修士論文「中小企業に対する役員給与課税の考察—不確定概念と与える予測可能性への影響—」は、現行の役員給与規定について、実務上で発生する問題を指摘したものである。具体的には、現行の役員給与はその恣意性排除の趣旨から、法人税法は事業年度初めに決定した役員給与額の変更を認めていないが、これが中小企業の実情に合致せず、硬直的な規定であると指摘している。酒向氏は会計事務所勤務しているため、実務上の問題意識に基づき、論文を構成しまとめていて、問題意識も明確であり、結論にも到達しているうえ、氏ならではの提言も行われている点が評価でき、実質的、形式的な基準を備えた優秀な修士論文であると言える。<br>さらに、長野県から通学し、社会人として働きながら研究を熱心に行ったことも評価できる。 |
| 2  | 学術 (修士論文) | 包 玉堂  | 社会科学 研究科 | 2  | 今井ゼミ  | 修士論文「現代女性の労働条件の変化—日本、中国、スウェーデンの比較による考察—」は、現代女性の労働条件の変化を日本、中国、スウェーデンの3国と比較している。日本と中国は同じ東洋の国であり、共通する価値観も多々ありながら、労働条件に関しては違いも多い。このような2国に対して女性の労働参加率が世界でも上位のスウェーデンと比較したところは評価できる。氏は日中両国の女性が活躍するには仕事と育児の両立、未婚・晩婚化、男女間の賃金格差などの問題を解決することが必要であると結論づけている。<br>また、女性の労働参加率の上昇に伴う出生率の低下についても指摘している、世界でもまだ研究が進んでいない分野の情報を集めた点も評価できる。                            |

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・大学】

| NO | 部門        | 氏名             | 学科     | 学年 | 所属               | 内容  |
|----|-----------|----------------|--------|----|------------------|---|
| 1  | 学術 (卒業論文) | 吉田 社孝          | 法      | 4  | 貫川ゼミ             | 学士論文「詐欺行為取消権の準拠法と明文化の是非—通則法における累積的適用の妥当性と比較法調査—」は、各国民法においても規定されている詐欺行為取消権が国際的に問題となった場合、いずれの国の法が適用されるべきかという詐欺行為取消権の準拠法について考察している。また、現在この問題については国際私法上明文規定がないため、詐欺行為取消権の準拠法の明文化をも主張している。<br>具体的には、まずは基本となる詐欺行為取消権について、我が国の法的枠組みを丁寧に説明し、そのうえで、国際的に詐欺行為取消権が問題となった場合には、近時の判例と同じく、被保全債権の準拠法と取り消される行為の準拠法の累積的適用が望ましく、さらにそれを明文化すべきと主張するものである。また国際的な詐欺行為取消および準拠法として外国法が指定されることをも想定し、諸外国(フランス、ドイツ、アメリカ)の法状況にも言及しており、意欲的な論文となっている。<br>なお、準拠法問題が主たるテーマであるため実質法に言及はしているものの必ずしも実質法上の具体例や考察については不十分な点が見受けられる。しかしながら、各国の民法から国際私法まで広い視野から円滑な国際取引と債権の保全について、深く積極的に考察した意欲的な論文であるといえる。   |
| 2  | 学術 (卒業論文) | 小椋 寛貴          | 政治行政   | 4  | 江藤ゼミ             | 学士論文「議会と連携した市民教育による草の根民主主義の向上」は、地方議会の問題点や課題を認識した上で、その課題を解決するために、教育が重要であることを主張している。その裏付けとしては、多様な事例を集めているとともにゼミで高校生に対して行った模擬投票などの実践が主張の核となっている。文献資料を多く用い、註も非常に充実しており、論の緻密さなどが群を抜いており、学術的な論文であるといえる。   |
| 3  | 学術 (卒業論文) | 長屋 大樹          | 現代ビジネス | 4  | 張ゼミ              | 本論文は、南アルプス市において必要とされる地域ブランドはどのようなものかを問題意識として捉え、少子高齢化や過疎化の解決を目的とした持続的な、地域そのものをブランド化することを仮説とし、それを検証するために、南アルプス市について調査した結果、過去の地域ブランドづくりの失敗要因が一部の事業者だけの利益拡大につながっており、多くの事業者には影響がなく、地域ブランドを理解して取り組んでいるものが不足していることが分かった。<br>また、地域ブランドづくりを成功させるために、綿密な文献調査と事例研究を行い、真の地域ブランドは地方における少子高齢化、過疎化の解決が目的であり、そのための地域資産が社会に求められるための、地域らしさという体験価値へ組み合わせることで「買いたいまち」「訪れたいまち」「交流したいまち」「住みたいまち」と結びつけることで「地域での新しい過ごし方を創造する」ということが判明した。<br>本論文は、地元の南アルプス市の地域ブランドづくりにフォーカスし、著者の提案が、今後南アルプス市の地域の活性化の取り組みに資するものと高く評価できる。  |
| 4  | 学術 (卒業論文) | 清水 紀輔          | 経営情報   | 4  | 倉澤ゼミ             | 学士論文「アスリート証券化商品のデザイン～日本のプロ野球選手を例にして～」は、アスリートが抱える所得変動リスクを分散・軽減するための手段として、金融市場で幅広く用いられている証券化という手法を検討した論文である。アメリカで行われたアスリート証券化の事例や住宅ローン担保証券を調査し、日本のプロ野球選手を例に商品設計をデザインした。<br>さらに、過去のデータから野球選手の年俸を予測する統計モデルを推定して、清宮幸太郎を証券化した場合の証券化商品の理論価格を算出した。日本では行われていないアスリートの証券化をデザインするという、意欲的、挑戦的な論文である。<br>また、海外の事例や商品化の理論についても詳細に調べており、研究の水準は卒業論文としては極めて高い。  |
| 5  | 学術 (卒業論文) | 遠山 千晶          | 管理栄養   | 4  | 名取ゼミ             | 本論文は、山梨県の特産品である甲州小梅に含まれるリグナン化合物が参加ストレス抑制に関わる遺伝子の発現を増強して線虫の寿命延長を導いていることを明らかにしたものである。高齢化が進む現代社会の課題、すなわち、医療費の増大、若年人口の減少、介護負担を念頭に、平均寿命と健康寿命の差に着目して研究課題を設定した点にも大きな特徴が見受けられる。また、地域貢献を目指し、県産食材を研究対象としている点も高く評価できる。具体的には、科学的な知識と技術を駆使して甲州小梅に含まれる有効成分を抽出、分離し、その抽出物の線虫における寿命延長効果の有無を繰り返し検証している。実験量や質、データの信用性は高い。<br>また、実験により得られた結果を参考文献や書籍等を利用しながら的確に考察し、次の実験へと進めている。一般的に、天然食材から単一の有効成分を見つけ出すことは難しい。しかし、最終的に高速液体クロマトグラフィーを用いて寿命延長効果を発揮している物質がリグナン化合物であることを特定している。<br>また、その物質(セコイソラリシネノール)が生体内のskn-1シグナル系を活性化させて老化防止に関連する遺伝子(hsp70、sod-1、gcs-1、pmk-1など)の発現を増強することで保護効果を発揮し、最終的に寿命延長へと導くという作用機序にも言及している点は非常に興味深く大変重要な新知見をまとめた論文である。<br>更に、国内学会において研究の成果を発表し(2件)、2017年度日本食品化学工業学会関東支部大会(2017年3月5日、山梨)では優秀賞を獲得している。 |
| 6  | 文化芸術      | 早川 文           | 政治行政   | 4  | 山梨学院歌舞伎酒折座(小菅ゼミ) | 早川さんは、成績優秀で人望が厚く、基礎演習においてはメンターを務めている。更に「山梨学院歌舞伎酒折座」の制作部長として大公演やステージ21でのワークショップを実施するなど成果をあげた。この活動は「NHK甲府まるごと山梨」や「山梨日日新聞」、「産経新聞」を始め、甲府CATVやFM甲府などの各種マスコミを通して広く発信された。また、所属するゼミにおいては、自身の研究活動とアクティブラーニングとを過不足なく連結させつつ、ゼミ長として課題解決に取り組んだ。  |
| 7  | スポーツ      | 藤波 勇飛          | 法      | 3  | レスリング部           | ・レスリング世界選手権大会 第3位<br>・全日本学生選手権大会 フリースタイル70kg級優勝<br>・内閣総理大臣杯全日本大学 フリースタイル70kg級優勝(2連覇) 団体総合2連覇に貢献<br>・世界ジュニア選手権 フリースタイル66kg級3位<br>・東日本学生リーグ戦4連覇に貢献  |
| 8  | スポーツ      | オマーレ・ドミニク・ニヤイロ | 現代ビジネス | 3  | 陸上競技部            | ・第94回東京箱根間往復大学駅伝競走 第2区区間賞<br>・第49回全日本大学駅伝 第8区 区間賞   |
| 9  | スポーツ      | 山崎 晃詞          | 法      | 4  | ホッケー部            | ・全日本学生ホッケー選手権大会3連覇に貢献。また、大会最優秀選手に選ばれた   |
| 10 | スポーツ      | 狩野 真美          | 現代ビジネス | 4  | ホッケー部            | ・女子ワールドリーグ セミファイナル(ヨハネスブルグ) 第6位   |
| 11 | スポーツ      | 新添 左季          | 法      | 3  | 柔道部              | ・講道館杯全日本柔道体重別選手権大会70kg級 優勝(2連覇)<br>・世界柔道選手権大会 男女混合団体戦 金メダル  |
| 12 | スポーツ      | 陶山 周平          | 経営情報   | 3  | 水泳部              | ・第29回ユニバーシアード(台北大会) 男子4×200mリレー 優勝  |
| 13 | その他       | 宮坂 未陽          | 法      | 3  | 横山ゼミ             | 法学科が実施した「ゼミ対抗法律討論会」(複数の法的論点が相関して問題となるA4で2ページ程度の長文事例問題に対し、各ゼミが10分間の立論及び質疑応答をおこない、その立論及び応答の総合的優劣を競うもの)に出場した環境政策ゼミの討論会主任担当者として、ゼミにおける議論及び立論資料の作成並びに討論会における立論及び質疑応答を主導し、ゼミを優勝に導いた。<br>さらに、その後(同年12月)に法学科代表として参加した「北関東甲信越大学対抗学生法律討論会」(本学のほか高崎経済大学・白鷲大学・流通経済大学が参加し、同様の立論・質疑応答をおこなうもの)においても、主任担当者として同様にゼミを主導し、準優勝に導いた。<br>いずれの立論及び質疑応答の内容も、十分な法的知識をベースに的確・明晰な思考をめぐらせた上での、説得力に満ちたもので、本学における教育成果が結実していることに目を細めさせられるような卓抜なものであった。また、ゼミにおける議論及び立論資料の作成段階において、他のメンバーと協調しながら十分なコミュニケーション・議論をおこなった結果、LMS(manaba)の掲示板における関連コメント総数は268件に達したほどであった。  |
| 14 | その他       | 増澤 あかり         | 現代ビジネス | 2  | —                | 課外授業「スチューデント・アドバイザー研修」では、物理的に参加が可能な会のほほすべてに参加し、リテラシーとコンピテンシーの向上に努めた。夏休みには、リアセック社のタクナルに関する外部団体主催の研修会にも参加した。<br>SSA(スポーツ強化指定選手への学習支援活動)の活動では常に中心的なアドバイザーとして、スポーツ強化指定選手の勉学をサポートしてきた。また、他のスチューデント・アドバイザーのお手本的存在となっていて、その面でも大いに貢献している。   |

平成29年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞 受賞者一覧

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・短期大学】

| NO | 部門   | 氏名                       | 学科   | 学年 | 所属   | 推薦内容  |
|----|------|--------------------------|------|----|------|---|
| 1  | 資格   | 古屋 悠花                    | 食物栄養 | 2  | 岡本ゼミ | <p>食品表示検定(主催:一般社団法人食品表示検定協会)は、検定試験をととして食品表示に関する知識の向上を目指している。試験は、100点満点中70点以上が合格点で資格が取得でき、初級、中級、上級があり、食品に関連する幅広い業種の人が受験している。山梨県における平成29年度の合格率は、初級91.5%、中級83.7%であったが、古屋さんは、1年次に初級(89点)、2年次に中級(87点)を受け、いずれも高得点で合格している。食物栄養科では実験・実習の教科が多く、時間割は過密といえるが、その中で、教科には関連するものもあるが、外部の資格を取得することは、非常に努力が必要といえる。また、授業に対しても積極的に優秀な成績を残していて、今年度食物栄養科から、健康栄養学部への編入がすでに決まっている。</p>   |
| 2  | 社会活動 | 鶴味 佑佳子<br>河手 伶奈<br>蔵部 友希 | 食物栄養 | 2  | 羽畑ゼミ | <p>鶴味・河手・蔵部の三名は、「牛乳料理コンクール」において、オリジナリティーの高いレシピを開発・出品し、関東大会で最優秀賞を獲得した。本年は、全国大会が開催されず、全国レベルの評価を受けられないのは残念であったが、関東全2641作品の中で最も評価された。今回の表彰は鶴味一人となっているが、コンクールへの出品は一人一作品であるため、各人がコンクールに出品できるように、互いにアイデアを出し合い切磋琢磨し協働で開発した三つのレシピのうちの一つであった。鶴味は、受賞レシピのコアとなるアイデアを提案し、レシピ開発の中心的役割を果たした。</p> <p>所属ゼミでは、山梨県産有機JAS規格「ジャージーミルク」を題材した研究およびレシピ開発を行っている。彼女らの開発したレシピ「贅沢! ジャージーミルクらめん」は、「牛乳料理コンクール山梨県大会」にて高く評価され、全県の応募総数177作品の中から見事最優秀賞を得た。そして、県代表として関東大会に出場となったが、関東大会ではジャージーミルクの使用が認められず、他の出場者と同じ牛乳を用いなければならなかった。そこで、如何に一般牛乳でジャージーミルクに近いコク・味わいを出すかを追求し、一般牛乳に二種類の食材を加えることで、元の「贅沢! ジャージーミルクらめん」に近い作品に仕上げ、「セロリ香る濃厚!!贅沢ミルクらめん」として出品した。その結果は、「ミルクとある調味料だけで素材の良さをすく引き出している。牛乳の温めた匂いがダメな人がいるけど、セロリがそれをよくカバーしている。発想がすごい。」「この牛乳料理コンクールで審査したこれまでのすべての種類系のレシピで、一番。ミルクらめんがこんなに美味しいなんて」と全審査員から絶賛され、全関東応募作品2641点の頂点、最優秀賞受賞となった。</p> <p>独創的かつ創意溢れるレシピ開発を継続的に行い、本科の栄養士養成校としての高いレベルと県産農産物、特に消費が落ち込む牛乳のアピールに繋げ、社会活動として大いに貢献した。</p> |